

令和元年度 第1回 海老名市にぎわい振興審議会 会議録

日時等	令和元年5月30日(木) 13:30~14:50 政策審議室		
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・「えびな元気にぎわい振興計画」の進行管理について ・平成30年度 にぎわい振興事業について ・平成31年度 にぎわい振興事業について 		
出席委員	羽田会長、三田副会長、佐藤委員、尾崎委員、塩脇委員、門脇委員、長委員、伊藤委員、三部委員 計9名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0名
事務局・説明者等	経済環境部長 谷澤 経済環境部次長 松本 商工課長 安宅、 にぎわい振興係 係長 佐藤、主事 花上		

案 件

1 「えびな元気にぎわい振興計画」の進行管理について

委員：計画の中で、まだ実施されていない部分につきましては、昨年度の審議会の中でも実施されていないものに関して、社会経済状況、環境の変化であるとか、市行政内部の関係各課の進捗という中で見直していいのではないかと感じております。また、計画を作った段階で想定してなかったものがでてきますので、そうしたものは新しく計画の中に盛り込んでいくことになると思います。

委員：前回の議事録を読ませていただいて、はとバスツアーが非常に好評だった。色んな計画を当初作ったけれども、やっぱり成果が上がる、効果が高いもの、資源を集中していくといった部分が大切。全てをやるというところが目的でない。成果の出たところに集中していくのが大事。計画の中でどれが効果的なのか検証しながらそこに力を注いでいくべき。関連で、ふるさと納税で人気のあるベスト3を教えてください。

事務局：平成30年度は、1億4,000万円のご寄付をいただいた。この時期は、コカ・コーラのドリンクは保存期間も長く人気。携帯周辺機器の需要が伸びてきている。アツギのストッキングも主力商品。タイツなどの季節商品も多数掲載。

委員：周辺機器とは？

事務局：モバイルバッテリーとかのイヤホンなど

委員：海老名との繋がりでピンと来ないが。

事務局：国の制度が地場産品であること、要は市内に工場があること、市内で製造されたものであり、一元管理されている自社製品であるものが基準となる。市内企業に協力を得て成り立っている事業である。

委員：最近、ふるさと納税が注目されている。名産品をイメージしていたが、そういったものがあるのであればアピールしていくというのも手だと思う。

委員：継続してやっているが、寄付額は伸びているのか。

事務局：前年度と比較すると若干少ないが、寄付件数はすごく増えている。

委員：もっと伸ばしていくべき。

委員：未着手の偉人の関係はファンクラブと同じ絡みで進むのかなと思う。同時進行でやると思うが、ファンクラブと同じ内容のところがある。商品開発は市の事業費がかかるし、検討して決定することを考えると、終わる年度ははっきりしていないが、やるのであればファンクラブを先行してやって、歴史などに興味がある方から意見を募って提案があればそこから商品開発に波及させていくのが段取り的にはいいと思う。

事務局：ふるさと納税していただいた方も返礼品の魅力以外にも海老名に興味がある。海老名のファンであると捉えるのもひとつ。制度の中でも市と寄附者の関わりを持つというような取り組みもある。事務局で検討していく。

委員：これに関しては事務局の考えとしても商品開発は難しい。資料1の基本施策に「回遊を促進するための施策として」とある。事業としてはさらにブレイクダウンして、こういうものをということだが、個々の事業となるとやはりいざこれを実現実施しようとするとなかなかコストの面や仕様の面などクリアしなければいけない課題がある。そのことを考えると施策レベルで実施できていないのではないかと。五年計画なのである程度割り切りも必要だと思う。写真コンテストは同様のことを実施しているのか。

事務局：姉妹都市のカレンダーの選定など

委員：写真コンテスト及び動画コンテストということになると未着手だけど、一部は実施しているものもあるので、事務局として謙遜しなくても構わないのではないかと。一番大切なのは、施策で描かれている、こんなようなものにきちんと取り組んでいるということ。「未着手」というところは表現を変えたりしてもいいのではと思うが、そのような考え方でいかがか。

委員：全体の流れからすると、未着手の部分は他にも含まれているところがある。未着手は全く実施していませんという表現でなければ、そういうかたちでもいいと思う。

委員：廃止や内容変更、他の事業とも統合、他事業に代替といった表現に変えられればいいと思う。

2 平成30年度 にぎわい振興事業について

◆実証実験ツアーの検証結果について

◆名店・名産品認定事業者等応援事業補助金

委員：パンフレットを見ていただいているが、今回は夏の商品。ほとんどの商品は季節ごと

にパンフレットが発行されていて、先日のモニターツアーとはコースが変更している理由については、訪問施設が夏休みは対応が難しいところがあった。季節が変わればモニターツアーで行った場所も行けることになる。商品化対象の観光資源は増えてきている。狙うのは冬だと思っていて、課題になっているイチゴ狩りをなんとか実現したい。冬のパンフレットは千葉を中心にイチゴ狩りがたくさんある。神奈川のイチゴ狩りはほとんどない。千葉と山梨に持たれている。売れば「継続して」となるのでぜひ皆様も告知をしていただくと嬉しい。はとバスにはファンがいるので、初めてのコースには関心を持つ。最初はそれなりに増えると思う。継続性をどう保っていくためには季節ごとに新しい魅力を売り込みながら進めていきたい。事務局からのプッシュで社内で情報を流していただけることになった。今後も何かサポートできることがあれば引き続きやって行ければと思う。

委員：このような売り込み方はあまりない。かなり珍しい企画だと思う。

委員：このコースの特徴は、ひとつの市内を回ることによって移動時間が短い、たくさん回れること。日帰りバスツアーは詰め込むのが定番で、朝が早かったり夜が遅かったりするが、このコースは、朝はゆったり、夜は早めに帰って来られるので、海老名のサービスエリアでお土産買って、ついでに夕飯もということでモニターツアーでも焼売弁当や肉まんなどたくさん買って帰られる方がいた。近場ならではの特別なプランだと思う。

委員：これは夏ですよ。暑い中どうかと心配。大変そうである。

委員：夏休みの方が集客しやすい。また、夏は海や山に行く人が多く、コース自体も少ない。夏の商品開発ははとバスも課題としているところではある。海老名のコースは室内が多いので、過ごしやすいと思う。

3 令和元年度 にぎわい振興事業について

◆名店名産品スタンプラリー

◆おでんナイトニッポン

◆観光ガイドブック「ななめぐり」リニューアル

◆名店・名産品ガイドブック完全版

委員：スタンプラリーの件で、名産品の吟味豚や黄金のモンブランは該当しないのか。

事務局：今回は考えていない。ロリアンは名産品で二品認定している。確かにモンブランもすごく人気でサービスエリアでも売上がすごい。

委員：商工会議所の名産品も取り入れてあげた方がいいと思う。お客様から見てわかりにくい気がするので整合してほしい。

事務局：特別枠を作ることも検討しているので、再度調整する。

委員：おでんナイトニッポンの今後のスケジュールで「警察協議」とあるが、資料の緑枠のところを申請するのか。

事務局：赤い斜線の部分が通行止めする範囲となる。

委員：エビーロードは封鎖せずということだが、なぜか。

事務局：神奈中バスの路線になるため、バス会社との調整も必要。警察としてはあまり封鎖してほしくないとのこと。

委員：昨年イベントに行ったが、すごいことになっていた。

事務局：今年は歩道の距離を少し長めにして余裕を持たせる予定である。

委員：事情は承知したが、イベントの内容としては止めた方が安全だと思う。

委員：昨年の来場者数は？

事務局：エリマネの報告では3,200人と聞いている。

委員：去年参加した人から聞いた話だと、初めての試みだったので、飲食店が用意する数が少なく、かなり早くなくなってしまったのが不評だった。

事務局：扇町飲食店も通常の営業をしながらの出店だったため、たくさん作ることが難しかった。今回の改善点としては、扇町飲食店だけではなく、名店認定店舗にもお声かけさせていただいて飲食ブースの拡充をしていこうと検討している。

委員：歩行者のスペースがほぼなかった。

事務局：前はステージと各ブースがひとつのところに密集して設置してしまったので、今回は分散するようにレイアウト変更をする。

委員：スペース的には道路を使ってきちんとプロポーシオンを整えて実施した方がいいことは間違いないと思う。

事務局：実際のところ、車道封鎖は非常に厳しい。扇町の周辺道路は平成に開通し、最初のイベントしか封鎖させてもらえてない。このイベント規模だと封鎖する影響の方が大きいので、協議しても承認いただけないと思う。バスのルートや一般車にも影響が出てしまう。ご意見は参考にさせていただく。

委員：確かに会場密集していた。わたしは早い時間に行ったのでそれほど混んでなかったが、少し経ったらすごい人だけになった。試飲コーナーが特にすごかった。ある程度散らした方がいいと思う。

委員：飲食店側の意向もあると思うが、安全を考慮するとロータリーで実施するのが一番だと思う。

事務局：ロータリーを使用する議論もあったが、そこまで大きい規模でもない。警察の担当者のご意見も聞いて協議したいと思う。

委員：恐らくこのイベントは11月の海老名の大きなイベントに発展していく可能性がある。やってみて、さらにいいものにしていけたらいいと思う。

以上